

# データ基に健康寿命延伸

## 高齢者1400人「いきいき健診」スタート

### 弘大と弘前市 全国1万人調査参画

全国の高齢者1万人の健康調査に参画した弘前大と弘前市の「いきいき健診」が7日、弘前市の中央公民館岩木館と岩木文化センターで始まった。13日まで65～80歳の市民約1400人の全身を詳しく調べ、健康寿命の延伸を目指す。

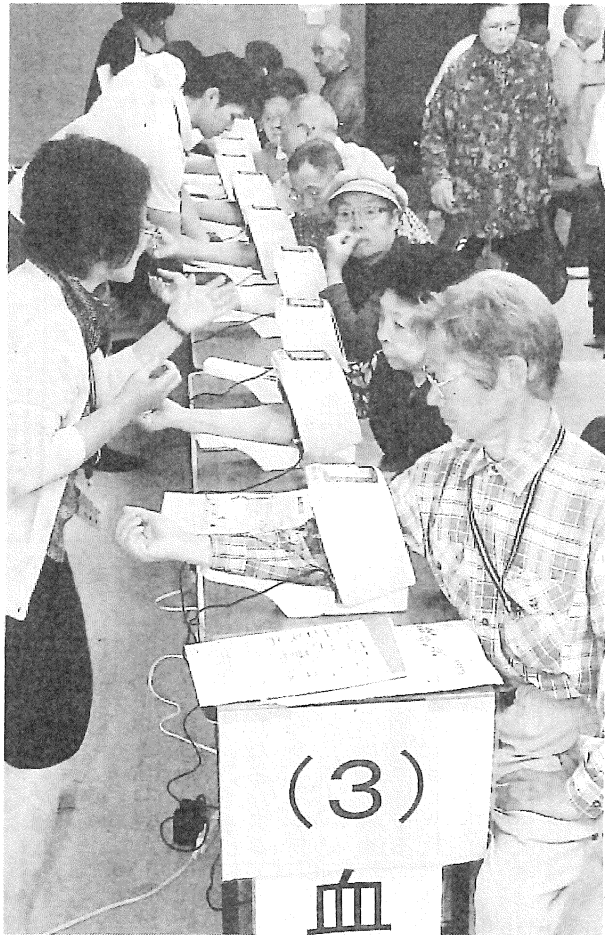
(鎌田秀人)

7日は約170人の市民が2～3時間かけて約20ブースを回り、血圧や動脈硬化度、運動能力などを調べた。7月中旬には、市内の医療機関で頭部MRI検査

も行う。全国調査は認知症関連の検査が対象だが、弘大と市は独自に、足腰の機能や内科系全般も調査。参加者は10年間、隔年で健診を受ける。

夫婦で受診した弘前市青山の安田良一さん(76)は「認知症にならず、いつまでも元気でいたい」と話した。

弘大と市は、企業や住民



弘前市の高齢者約1400人を対象にスタートした「いきいき健診」

ボランティアの協力も得て、総勢約250人のスタッフを投入。弘大大学院医学研究科の中路重之教授は「単なる大規模な健診ではなく、健康寿命を延ばすため、関係機関が連携を深める場にもしたい」と語っ

た。全国調査は国が今年から取り組んでいる事業で、弘大や九州大など8大学が、認知症のメカニズムや予防法を探るため、生活習慣との関係や地域差の有無などを追跡調査する。